

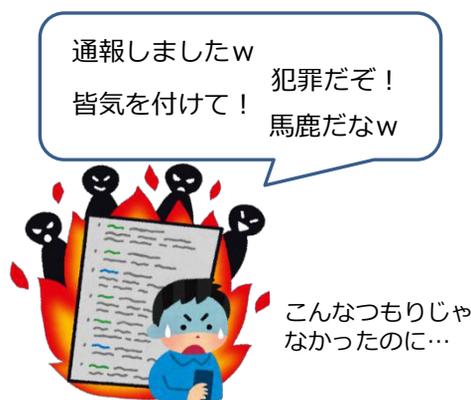
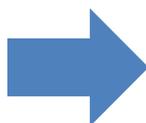
犯行予告の書き込みについて

インターネットでは、日々多くの問題投稿がおこなわれています。その中の一つに、犯行予告の書き込みがあります。殺人や爆破などの犯罪行為を予告しているもので、なかには子どもたちが書き込んでしまうこともあります。こうした書き込みは社会に与える影響も大きく、軽い気持ちで書き込んだものでも取り返しのつかない事態に発展してしまう可能性があるのです。

犯行予告の実態

以前は掲示板への書き込みが多かった犯行予告ですが、最近はSNSへの書き込みが多くなっています。「〇月×日に△△で人を殺す」「△△に爆弾を仕掛けた」などといったものがSNSに書き込まれているのです。

たとえ実行するつもりが無かったとしても、こうした投稿がおこなわれると、警察が特別な体制をとって警備にあたりたり、犯行予告をされた公共機関や企業が通常の営業がおこなえなかったりと、多くの人に迷惑をかけてしまいます。また、場合によっては罪に問われたり、損害賠償を請求されたりする可能性もあります。



なぜ犯行予告を書き込むのか

ではそもそも、なぜ子どもたちはインターネットに犯行予告を書き込んでしまうのでしょうか。犯行予告を書き込んだ動機としてよく見られるのが、「有名になりたかった」「SNSでの友達数を増やしたかった」といったものです。書き込んだあとにどうなるかということを考えもせず、多くの人の注目を集めようと過激なことを書き込んでしまうのです。

また、いたずら目的やストレス発散のために犯行予告を書き込む子どもたちも多いようです。SNSをはじめ、インターネットサービスには匿名で書き込むことができるものが多くあるため、軽い気持ちで書き込んでしまうのです。

しかし、インターネット上の投稿には「いつ、どこで、どの機器が投稿したものか」という記録が残されています。インターネット上に殺人や爆破などの事件性のある書き込みをすると、警察がこの記録を調査します。そのため、匿名の投稿であっても身元を特定することが可能です。

子どもたちには、犯行予告のような不適切な投稿は、自分の将来だけでなく家族にまで大きな影響を与えてしまう可能性があるものだということを理解させ、インターネットに書き込む際は、自分の発言として責任を持っておこなうよう指導していくことが大切です。